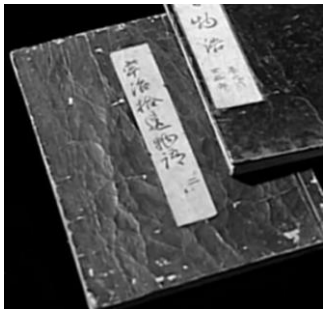


『児のそら寝』ワークシート② へ 『宇治拾遺物語』とは？

● 『宇治拾遺物語』
うじしゅういものがたり



- ・ 成立はいつ？ (十三世紀 初めごろ)
- ・ 作者・編者は？ (未詳)
- ・ 説話とは？ (昔話、神話、伝説など)
- ・ 説話はいくつ？ (百九十七話)

● 収められている説話

次の文章は、現在も読まれる昔話のもととなった説話の一節です。昔話の題名を書きましょう。

1
今は昔、大門にてけつまつきて、うつろしに倒れにけり。起きあがりたるに、あるにもあらず、手ににぎられたる物を見れば、藁すべといふ物をただ一筋にぎられたり。

わらしべ長者

2
これも昔、右の顔に大きな瘤ある翁ありけり。薪をとりて世を過ぐる程に、山に行きぬ。雨風ははしたなくて帰るに及ばで、山の中に心にもあらずとまりぬ。

こぶとりじいさん

3
中ごろのことなるに、いつくしき男子をまうけけり。さりながら、生まれおちてより後、背一寸ありぬれば、はや十二、三になるまで育てぬれども背も人ならず。

一寸法師

4
今は昔、春つかた日うららかなりけるに六十ばかりの女のありけるが、庭に雀のしありけるを、童石を取りて打ちたれば、当りて腰をうち折られにけり。

舌きりすずめ

5
今は昔、池尾といふ所に禪珍内供といふ僧住みき。さて、此の内供は鼻の長かりける、五六寸ばかりなりければ、顎よりも下がりてなむ見えける。

鼻

*この中に一つだけ『宇治拾遺物語』に収められていない話があります。どれでしょう。

(3)

※ 説話の題名

「雀報恩の事」
すずめおんをむくゆる



「鼻長き僧の事」



「鬼に瘤取らるる事」
こぶ



「長谷寺参籠の男、利生に預かる事」
はせでらさんろう
りしやう
あづ



「一寸法師」
いっすんぼうし

